(b) 教材や文房具品の供給

ベトナムの調査では、生徒に本学年度どれ ほどの教材を持っているかを尋ねた。データ 収集の年には親が29冊の教科書を購入する ことが決められていた。例外は貧困家庭で、 政府が主な教科書5冊を配給していた。親は 5 年生のための文房具用品の 10 品(提出用 ノート、自習用ノート、鉛筆、色鉛筆、計算 機、ボールペン、小さい机、白墨、かばん、も のさし)を購入することになっていた (World Bank 2004)。これらは親の資産レベルをあ らわす指標とも考えられるが、生徒のカリ

表 4 2001 年ベトナム小学校 5 年生男女が少なくとも一回留年した割合 (P) と標本誤差 (SE)

		少な	くとも1回	は留年した	:割合		
地域	男	子	女	子	男女	格差	
	$P_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$P_{\scriptscriptstyle G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	P_G – P_B	$SE_{P_{G-P_B}}$	
紅河三角地帯	7.8	0.45	4.4	0.30	-3.3	0.54	**
北東部	22.5	0.63	16.2	0.65	-6.3	0.90	**
北西部	36.3	1.96	26.9	2.07	-9.4	2.85	**
北中部	16.5	1.02	12.9	0.94	-3.5	1.38	**
中央海岸	15.9	0.85	11.4	0.75	-4.5	1.13	**
中央高原	29.8	1.52	23.2	1.72	-6.6	2.29	**
南東部	21.5	0.78	13.5	0.63	-8.0	1.00	**
メコン河三角地帯	25.8	0.82	18.5	0.64	- 7.3	1.04	**
ベトナム	19.6	0.32	13.8	0.30	-5.9	0.44	**

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

表5 2001 年ベトナム小学校5年生男女で5年生を留年した割合 (P) と標本誤差 (SE)

		小等	≥校5年生で	を留年した	割合		
地域	男	子	女	子	男女	格差	
-	$P_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$\overline{\hspace{1cm}P_{\scriptscriptstyle G}}$	SE_G	P_G – P_B	$SE_{\scriptscriptstyle P\scriptscriptstyle G-P\scriptscriptstyle B}$	
紅河三角地帯	1.9	0.19	1.2	0.17	-0.7	0.26	**
北東部	3.0	0.26	2.3	0.24	-0.7	0.35	**
北西部	4.6	0.72	4.2	0.89	-0.4	1.14	
北中部	3.8	0.55	2.8	0.47	-1.0	0.72	
中央海岸	3.0	0.38	2.5	0.41	-0.5	0.56	
中央高原	5.9	0.73	5.5	0.92	-0.4	1.18	
南東部	2.9	0.38	1.8	0.23	-1.1	0.44	**
メコン河三角地帯	3.3	0.29	2.7	0.23	-0.6	0.37	
ベトナム	3.2	0.13	2.4	0.13	-0.8	0.18	**

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

キュラムにおける機会(つまり学校でのプロセス) を記すものでもある。

表6には、ベトナムの小学校5年生の男子と女子が持っている教科書の冊数(合計29冊)が地域ごとに示されている。男女格差は少ないが、中央海岸と南東部での格差は、統

計的に有意に、男子の方が教科書の数が多かった。

文房具品においては、すべての地域で男子より女子のほうが多くの品数を持っていた。 北西部と中央海岸以外では、これらの格差は 統計的に有意となった(表7)。これは、この

表6 2001 年ベトナム小学校5年生が所持する教科書数の平均値 (M) と標本誤差(SE)

		所持	する教科書	数(最高2	9冊)		_
地域	男	子	女	子	男女	格差	_
	$M_{\scriptscriptstyle B}$	$\overline{SE_{\scriptscriptstyle B}}$	$\overline{}_{G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	M_G - M_B	$SE_{\scriptscriptstyle MG-M_{\scriptscriptstyle B}}$	_
紅河三角地帯	18.4	0.16	18.4	0.14	0.0	0.21	_
北東部	15.5	0.15	15.5	0.15	0.0	0.21	
北西部	12.9	0.29	13.0	0.33	0.0	0.44	
北中部	14.5	0.19	14.3	0.21	-0.2	0.28	
中央海岸	15.4	0.14	15.0	0.15	-0.4	0.20	**
中央高原	15.3	0.25	15.0	0.26	-0.3	0.36	
南東部	16.7	0.14	16.3	0.13	-0.4	0.19	**
メコン河三角地帯	15.5	0.12	15.3	0.11	-0.2	0.16	
ベトナム	16.0	0.06	15.8	0.06	-0.1	0.08	_

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

表7 2001 年ベトナム小学校 5 年生が所持する文房具品の平均値 (M) と標本誤差 (SE)

		所持する	5文房具品の	の数(最高	10品目)		_
地域	男	子	女	子	男女	格差	_
-	$M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$\overline{}_{G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	M_G – M_B	$SE_{\scriptscriptstyle M_{\scriptscriptstyle G-M_{\scriptscriptstyle B}}}$	_
紅河三角地帯	8.2	0.03	8.3	0.03	0.2	0.05	**
北東部	8.0	0.04	8.1	0.03	0.2	0.05	**
北西部	7.5	0.10	7.7	0.09	0.2	0.13	
北中部	7.8	0.06	8.0	0.06	0.2	0.09	**
中央海岸	8.5	0.06	8.6	0.06	0.1	0.08	
中央高原	7.6	0.10	7.9	0.10	0.3	0.14	**
南東部	8.5	0.04	8.6	0.03	0.2	0.05	**
メコン河三角地帯	8.2	0.04	8.3	0.03	0.1	0.05	**
ベトナム	8.1	0.02	8.3	0.02	0.2	0.02	**

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

指標が学習機会だけではなく親の資産的境遇 も表すということに帰しているともいえるで あろう。

(3)家庭環境と学習への援助の男女格差

女子が教育で成功するための条件は、学校 にだけあるとは限らない。家庭の境遇や家族 の援助にも大切な意味がある。

学習のための家庭環境に関する指標は三つ 検証された。社会経済的背景、通学時間、そ して家の手伝いに費やす時間である。学習の ための家族の援助に関しては、一般的な家族 からの関心と塾や家庭教師を通じての学習時 間の二つの指標が検証された。

(a) 社会経済的背景

一般的に、社会経済的に恵まれた生徒は、 社会経済的に恵まれない生徒に比べて成績が よい。これは、裕福な家庭ほど、親は子供の ために本を買って与えることができ、子供が 静かに勉強できるような勉強部屋を用意する ことができ、宿題を手伝うことができ、子供 の学校での学習に興味を持つからであると考 えられている。

ベトナムの調査では、社会経済的指標は家庭での所持品目、親の学歴、人種、家庭の会話に使われる言葉、家庭での本の数を主成分分析を用い作成された(Griffin 2004a)。この尺度は平均0、偏差値が1となるよう標準化された。

表8に示すように、すべての地域で、男女の社会経済背景の格差は標本誤差に比べると小さいものであった。つまり、男女とも同じような社会経済環境レベルに属するということである。

(b) 通学時間

女子の学校参加や成績に影響するものとして、学校への距離、 家事手伝いに費やす時間、学校での暴力やいじめに対する恐怖、女子トイレの有無などが考えられる (UNESCO 2003; ADB 2006; Oxaal 1997)。

UNESCO (2003) は、家から学校への距離は学校参加に影響がある理由として、親は男子に比べて女子のほうが危険にさらされるリスクが大きいので、自分の娘を学校に通わす

表 8	ベトナム	小学校 5	年生男女(D家庭環境指	標の平均値	直 (M)	と標本誤差(SE)

				. ,	, ,	
			家庭環	境指標		
地域	男	子	女子		男女格差	
	$M_{\scriptscriptstyle B}$	$\overline{SE_{\scriptscriptstyle B}}$	M_G	SE_G	$\overline{M_{\scriptscriptstyle G}}$ – $M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle MG-MB}$
紅河三角地帯	0.4	0.02	0.4	0.02	0.0	0.02
北東部	-0.4	0.03	-0.4	0.03	0.0	0.04
北西部	-1.7	0.09	-1.6	0.10	0.1	0.13
北中部	0.2	0.05	0.2	0.05	0.0	0.08
中央海岸	0.2	0.04	0.1	0.04	0.0	0.06
中央高原	-0.4	0.07	-0.3	0.09	0.0	0.11
南東部	0.2	0.03	0.2	0.03	-0.1	0.04
メコン河三角地帯	0.0	0.02	0.0	0.02	0.0	0.03
ベトナム	0.0	0.01	0.0	0.01	0.0	0.02

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

のを好まないと報告している。さらに、もし 子供の通学時間が長いと、疲れの要因にもな り、また、宿題や予習をする時間が減少す るとも考えられる。

表9では、通学時間の平均と標本誤差を示した。一般的に、ベトナムの子供たちは、通学時間にあまり時間をかけておらず、平均は男女とも、約17分であった。一番長くて北西部の21から22分であった。北東部を除いて、通学時間に男女格差はなかった。北東部では、女子の通勤時間は男子のそれより平均0.8分上回った。

(c) 家事手伝いに費やす時間

家庭での仕事が多いと、勉強の時間が減少する。結果として、これは成績に影響するであろう。女子は家庭での仕事や幼少児童の世話などで、欠席が多くなるという仮説も立てられる。

ベトナムの調査では、家庭で何時間仕事に 費やすかを生徒に尋ねた。回答が一日につき 何分かという単位に変換された。表10 にも 見られるように、ベトナムでは、子供は一日 1時間半から2時間ぐらい働く。

男女格差については、北西部以外のすべて の地域で、統計的に有意な格差があり、女子 のほうが男子より多くの時間を家事に費やし た。実際、北西部では男子のほうが女子より 家事に多くの時間を費やした。ただし、この 格差は統計的に有意なものではなかった。

Cuc (2002) の報告によると、これらの地域では、女子は教育を受けるよりむしろ家庭で仕事を手伝うことを期待されていて、この仕事の種類は地域によってあらゆるものがある。三角地帯では、女子は穀物や魚を捕る作業があり、山岳地帯では、親が穀物を捕りにでかけるため、女子は家での作業をする。北西部で統計的に有意な格差がなかったのは、貧困が原因との仮説が立てられる。つまり貧困のため全員が食料や収入を得る必要があるので格差は少ないと考えられる。

(d) 家族の関心

一般的に、家族の中に子供の勉強に興味を 持つ人がいると、その子供は家族からの関心 がない子供より成績がよいといわれている。

表 9 ベトナム小学校 5 年生の男女の通学時間の平均値 (M) と標本誤差(SE)

			通学時間	間(分)			
地域		子	女	女子		男女格差	
-	$M_{\scriptscriptstyle B}$	$\overline{SE_{\scriptscriptstyle B}}$	$\overline{}_{G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	$\overline{M_{\scriptscriptstyle G}}$ – $M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle Mc-M{\scriptscriptstyle B}}$	_
紅河三角地帯	15.0	0.16	15.0	0.17	-0.1	0.23	_
北東部	18.7	0.25	19.5	0.26	0.8	0.36	**
北西部	21.7	0.60	21.4	0.73	-0.3	0.95	
北中部	16.4	0.41	16.5	0.43	0.1	0.60	
中央海岸	14.7	0.26	15.0	0.31	0.4	0.40	
中央高原	18.0	0.74	18.3	0.68	0.3	1.00	
南東部	14.3	0.21	14.5	0.23	0.2	0.31	
メコン河三角地帯	19.0	0.25	19.1	0.26	0.1	0.36	
ベトナム	16.8	0.11	17.0	0.10	0.2	0.15	_

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

家族の興味は子供の勉強に対する援助に関する三つの質問から主成分分析を用いて作成された。その質問は、家族の誰かが宿題がすんだことを確かめるかどうか、家族の誰かが宿題を手伝うかどうか、そして家族の誰かが学校で何を勉強しているかを子供に尋ねるかど

うかである。この尺度は平均0偏差値1となるよう標準化された(Griffin 2004a)。

表 11 に示すように、 たいていの地域で、 家族の持つ興味での男女格差はなかった。つ まり、家族は男子にも女子にも同じように関 心を示していた。

表 10 ベトナム小学校 5 年生の男女が家事に費やす時間の平均値 (M) と標本誤差(SE)

			家事に費やる	す時間(分))		_
地域	男	子	女	子	男女	格差	_
	$\overline{}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$M_{\scriptscriptstyle G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	M_G - M_B	$SE_{{\scriptscriptstyle MG-MB}}$	_
紅河三角地帯	101.9	1.19	112.6	1.12	10.8	1.63	**
北東部	121.7	1.09	126.5	1.13	4.8	1.57	**
北西部	126.4	2.10	122.9	2.20	-3.5	3.04	
北中部	116.6	1.86	124.6	1.49	8.0	2.38	**
中央海岸	101.3	1.54	115.6	1.38	14.3	2.07	**
中央高原	109.7	2.68	118.3	2.31	8.6	3.53	**
南東部	90.0	1.25	104.4	1.41	14.4	1.88	**
メコン河三角地帯	99.4	1.00	107.0	1.00	7.6	1.41	**
ベトナム	106.0	0.53	115.1	0.49	9.1	0.72	**

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

表 11 ベトナム小学校 5 年生の男女の家族の興味平均値 (M) と標本誤差(SE)

			家族興味	未の指標		
地域	男	子	女子		男女格差	
	$M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$M_{\scriptscriptstyle G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	M_G - M_B	$SE_{\scriptscriptstyle MG-M_B}$
紅河三角地帯	0.1	0.03	0.1	0.03	0.0	0.04
北東部	0.1	0.03	0.1	0.02	0.0	0.03
北西部	-0.1	0.06	-0.1	0.05	0.0	0.08
北中部	0.1	0.04	0.2	0.03	0.1	0.05
中央海岸	-0.1	0.03	-0.1	0.04	0.0	0.05
中央高原	-0.1	0.05	-0.1	0.05	0.0	0.07
南東部	-0.1	0.02	-0.1	0.02	0.0	0.03
メコン河三角地帯	-0.1	0.03	-0.1	0.02	0.0	0.03
ベトナム	0.0	0.01	0.0	0.01	0.0	0.01

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

(e) 塾や家庭教師の時間

もうひとつの家庭の援助を表す情報として、塾に通ったり家庭教師をつけたりする学校外学習がある。ベトナムの調査では、この学校外の学習について数々の質問をした。どの科目を勉強しているか、何時間勉強してい

るか、有料かどうか、誰から教わっているかなどである。表12は、小学校5年生の男子と女子の塾や家庭教師を経験している生徒の割合と標本誤差である。ベトナム全体としては、3分の1以上の男子と女子が塾や家庭教師を経験していた。南東部での割合が高く、

表 12 ベトナム小学校 5 年生の男女の塾や家庭教師の経験がある割合 (P) と標本誤差

		ij	塾や家庭教師	市経験の割	合	
地域	男	子	女	子	男女	格差
	$P_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$P_{\scriptscriptstyle G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	$P_{\scriptscriptstyle G}$ – $P_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle P\scriptscriptstyle G-P\scriptscriptstyle B}$
紅河三角地帯	26.7	1.61	26.4	1.67	-0.3	2.32
北東部	30.4	1.65	31.5	1.65	1.1	2.34
北西部	23.2	2.77	24.8	2.97	1.6	4.05
北中部	42.1	2.69	43.0	2.70	1.0	3.81
中央海岸	51.8	2.31	51.3	2.58	-0.5	3.46
中央高原	48.9	3.35	49.6	3.70	0.7	4.99
南東部	54.3	2.03	55.8	2.23	1.5	3.01
メコン河三角地帯	33.1	1.21	33.6	1.26	0.5	1.74
ベトナム	38.2	0.66	38.7	0.69	0.6	0.96

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

表 13 ベトナム小学校 5 年生の男女が塾や家庭教師に費やした時間の平均値 (M) と標本

			塾や家庭教	師との時間	II.	
地域	男	子	女子		男女格差	
_	$M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$\overline{}_{G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	$\overline{M_{\scriptscriptstyle G}}$ – $M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle MG-M_{\scriptscriptstyle B}}$
紅河三角地帯	5.7	0.20	5.6	0.19	-0.1	0.27
北東部	5.7	0.15	5.9	0.16	0.1	0.22
北西部	5.1	0.48	4.9	0.40	-0.2	0.63
北中部	6.1	0.25	6.0	0.24	-0.2	0.34
中央海岸	6.4	0.18	6.2	0.20	-0.2	0.27
中央高原	7.1	0.37	7.4	0.29	0.3	0.47
南東部	7.0	0.17	7.0	0.19	0.0	0.25
メコン河三角地帯	6.0	0.19	6.0	0.19	0.0	0.27
ベトナム	6.3	0.07	6.2	0.08	0.0	0.11

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

(約54-55 パーセント)、それに続き中央海岸 (51-52 パーセント)であった。しかし、男女格差はすべての地域でごく小さいものであった。家族の興味と同様、家庭の援助も男子も女子も同じように受けていた。

これらの結果は小学校5年生の男子と女子が関わっている塾や家庭教師の時間数とも一致している(表 13 参照)。

(4)学習到達度の男女格差

(a) 読解力テストの成績

数々の研究において、読解力は女子のほうが優れているという結論を出している。2001年に行われたIEAの国際読解力推移調査 (PIRLS) によると、37カ国で小学校4年生の女子は男子より読解力が優れていた (Mullis et al. 2003)。Lietz (2006) もPIRLS やOECDの国際学力調査(PISA)を含む140の調査を検証し、どのレベルでも女子優勢というのは一貫していると結論をだした。

表14にみられるように、すべての地域で女子は読解力が男子より高かった。これらの格差は紅河三角地帯、北東部、南東部、メコ

ン河三角地帯、ベトナム全体で統計的有意であった。さらに分析すると、読解力のすべての分野(物語的文章の読解、解説書的文章の読解、記録書的文章の読解)で女子は男子の成績を上回った。ベトナムの結果は齋藤・黒田(2000)の結果とは異なった。アフリカ南部諸国で女子は記録書的文章の側面では男子に及ばなかったが、他の二つの側面(物語的文章の読解と解説書的文章)では女子も男子も同等の成績であった(齋藤・黒田 2000)

(b) 算数のテストの成績

一般的に、男子は算数を含む理科系の科目で女子より優秀であるといわれている。SACMEQの14カ国のなかでは、五つの国で男子が女子の成績を上回った (Saito 2004a; Saito 2004b)。 2003年のTIMSSでは、46カ国中9カ国で、8年生(日本の中学校2年生)の女子は男子より統計的に有意に成績がよく、11カ国で、その逆であった。小学校4年生においては、4カ国で女子優勢で、7カ国で男子優勢であった(Mullis et al. 2005)。

表15は、算数のテストの平均点と標本誤

表 14 ベトナム小学校 5 年生の読解力テストの成績における男女格

	読解力テストの得点						
地域			女子		男女格差		_
	$\overline{}$ $M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$M_{\scriptscriptstyle G}$	SE_G	$\overline{M_{\scriptscriptstyle G}}$ – $M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle Mc-M{\scriptscriptstyle B}}$	_
紅河三角地帯	521.6	3.73	538.0	3.32	16.4	4.99	**
北東部	498.6	2.85	508.0	3.31	9.5	4.36	**
北西部	473.8	6.59	484.6	6.64	10.8	9.36	
北中部	502.3	4.92	513.3	4.73	11.0	6.82	
中央海岸	488.1	3.92	495.5	3.88	7.4	5.52	
中央高原	499.6	7.75	502.4	7.54	2.7	10.82	
南東部	500.2	3.17	513.9	3.67	13.7	4.85	**
メコン河三角地帯	461.4	2.65	471.2	2.48	9.8	3.63	**
ベトナム	494.5	1.47	505.9	1.28	11.4	1.95	- **

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

表 15	ベトナム/	小学校 5:	年生の算数	のテスト	·の成績におけ	る男女格差

	算数のテストの得点						
地域	男子		女子		男女格差		
	$M_{\scriptscriptstyle B}$	$SE_{\scriptscriptstyle B}$	$M_{\scriptscriptstyle G}$	$SE_{\scriptscriptstyle G}$	M_G – M_B	$SE_{{\scriptscriptstyle M}{\scriptscriptstyle G-M}{\scriptscriptstyle B}}$	
紅河三角地帯	530.4	4.05	529.9	4.32	-0.4	5.93	
北東部	509.1	3.38	508.0	3.95	-1.1	5.20	
北西部	486.0	8.20	489.0	8.52	3.0	11.82	
北中部	518.0	5.20	518.0	5.05	0.0	7.25	
中央海岸	496.5	3.69	493.7	3.81	-2.8	5.30	
中央高原	511.2	6.51	506.0	7.92	-5.2	10.25	
南東部	497.8	3.47	491.4	3.82	-6.4	5.16	
メコン河三角地帯	459.5	2.31	455.5	2.41	-4.0	3.34	
ベトナム	501.1	1.49	498.8	1.31	-2.2	1.98	

⁽注) ** 男女格差は信頼度95%で有意。

差である。読解力では女子が優勢であったのに比べ、算数では結果はさまざまであった。しかし、これらの男女格差は統計的に有意なものではなかった。より詳しい分析によると、四つの地域で女子は「数」の側面において男子より成績がよかったが、他の二つの側面(測定とグラフ・データ)では、すべての地域で女子は男子の成績に及ばなかった。

4. 結論

本小論の目的は、ベトナムでの男女平等性を調査することであった。EFAのゴール達成という文脈のなかでの男女平等性を調べるために、学校参加、学校でのプロセス、家庭環境、学習達成度の四つの面での指標を通して評価した。総括的に、小学校5年生の生徒数は、男子より女子の人数のほうが少なかった。その反面、女子は欠席日数が少なかった。さらに、女子も男子も同等のカリキュラムの機会が与えられているが、男子のほうが留年の数が多かった。女子は文房具所持品が男子の数が多かった。女子は文房具所持品が男子

より多かったが、社会経済環境は男子と同じであった。家庭では、親は、男子にも女子にも同等の関心を示し、塾や家庭教師を経験させた。しかし、女子はさらに家事手伝いに男子より多くの時間を費やした。最後に、学習達成度の面では、読解力は女子は男子より圧倒的によく、算数では男女同等の成績であった。

これらの結果から、女子はいったん小学校に入学すると、家庭でのいかなる重労働があるにもかかわらず、男子より短い年月で学校を卒業し、成績は男子より優れているか、もしくは同等であるといえる。このような恵まれない男子に対して政府、学校、家庭で何をすべきかを考えることが重要な課題であるともいえる。

Saito (1998a, 1998b) や齋藤・黒田 (2000) が出した結論とは異なり、ベトナムでは、「より選ばれた女子」が学校に参加しているということが、読解力における女子の成績の良さと、算数での男女格差が存在しないことを説明できるともいえる。もし男子と同じレベルまで女子の就学率が増えると、

⁽出所) Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study (World Bank 2001) より筆者作成

「選ばれない女子」までも含めることになり、同じ結果は得られない可能性もある。男女平等にEFAが達成された後に教育の質においての男女格差が拡大しないような戦略を考慮する必要があるといえるであろう。

ベトナムの調査では小学校高学年に焦点が おかれたため、小学校後の教育や人生一般の 機会については何も答えが出されていない。 中等教育や高等教育へのアクセスについて は、ベトナムは初等教育と同様女子の男女合 計に対する割合は常に47パーセントを保っ ている (Le 2006)。これは、女子が小学校 レベルで顕した男子と同様または男子より優 れた才能が小学校以降でも引き継がれている ということである。これはベトナムの教育省 が女子の潜在的能力を身長させる方向の政策 をとっているという意味でもある。初等教育 以降での教育の質に関するデータが不十分で あるベトナムの教育省にとって、中等教育や 高等教育のレベルでの教育の質の調査をもと に、男女格差を定期的にモニターすること も、EFA のゴールを達成するための重要課 題であるといえるであろう。

参考文献

- 齋藤みを子・黒田一雄 (2000)「アフリカ7カ国 における初等教育就学児童の読解力の男女間格 差に関する統計的考察 教育の質調査のための 南アフリカ諸国連合(SACMEQ)の調査結果か ら」『国際教育協力論集』3巻1号,25-39頁.
- Asian Development Bank (2006). Pursuing gender equality through the millennium development goals in Asia and the Pacific. Manila: Asian Development Bank.
- Brophy, J. (2007). *Grade repetition*. Education policy series 6. Paris: UNESCO-IIEP.
- Cuc, N. (2002). Family and students' influences on early withdrawal from lower secondary schools in rural Vietnam. Unpublished doctoral dissertation. Melbourn: University of Melbourn.

- Eisemon, T. O. (1997). *Reducing repetition: Issues and strategies*. Fundamentals of Educational Planning, No. 55. Paris: UNESCO-IIEP.
- Griffin, P. (2004a). Chapter 2: What were the levels of achievement of grade 5 pupils in Reading and Mathematics: Volume 2. Hanoi: World Bank.
- Griffin, P. (2004b). Chapter 2: Pupil test development and calibration. In Vietnam Reading and Mathematics assessment study: Volume 3. Hanoi: World Bank.
- Mullis, I. V. S., Martin, M. O. & Foy, P. (2005). IEA's TIMSS 2003 International Report on Achievement in the Mathematics Cognitive Domains: Findings from a Developmental Project. Boston: International Association for the Evaluation of Educational Achievement (IEA).
- Mullis, I. V. S., Martin, M. O., Gonzales, E. J. & Kennedy, A. K. (2003). PIRLS 2001 International report: IEA's Study of Reading Literacy Achievement in Primary School in 35 Countries. Boston: International Association for the Evaluation of Educational Achievement (IEA).
- IIEP (2006). Module 2: Internal efficiency of an education system. Self-learning materials on basic quantitative techniques used in educational planning. Paris: UNESCO-IIEP.
- Kulpoo, D. (1998). The quality of education: Some policy suggestions based on a survey of schools. SACMEQ policy research: Report No. 1. Paris: UNESCO-IIEP.
- Le, C. L. V. (2006). Reform or renovations? The political economy of education reform in Vietnam since the introduction of § æi Mű. Nagoya: Nagoya University.
- Lietz, P. (2006). A meta-analysis of gender differences in reading achievement at the secondary school level. Studies in educational evaluation, 32(4), pp. 317-344.
- Oxaal, Z. (1997). Education and poverty: A gender analysis. BRIDGE Report 53. Brighton: BRIDGE.
- Ross, K. & Leite, S. (2000). *IIEP Jack User's Guide*. Paris: UNESCO-IIEP.
- Ross, K., Saito, M., Dolata, S. & Ikeda, M. (2004).

 Chapter 4: Sample design procedures: The Vietnam grade 5 survey. In In Vietnam Reading and

- Mathematics assessment study: Volume 3. Hanoi: World Bank.
- Saito, M. (1998a). Gender vs. socio-economic status and school location differences in Grade 6 Reading Literacy in five African countries. Studies in educational evaluation, 24(3), pp. 249-261.
- Saito, M. (1998b). The impact of gender, social background, and school location on reading levels in Southern Africa. *IIEP newsletter*, 16(4). Paris: UNESCO/IIEP.
- Saito, M. (2004a). Gender Equality and Education for All: Message from SACMEQ Countries. A paper presented at the SACMEQ Data Archive Dissemination Workshop (Nairobi, Kenya & Pretoria, South Africa, 28 June 2 July 2004).
- Saito, M. (2004b). Gender equality in reading and mathematics achievement: Reflecting on EFA goal 5. IIEP Newsletter, 22(2). Paris: UNESCO/IIEP.
- Tran, T. Q. & To, X. P. (2002). Vietnam: Social development is a priority. Social watch report 2002: The social impact of globalization in the world. Montevideo: The Third World Institute. Downloaded from http://unpan1.un.org/intradoc/groups/public/documents/ APCITY/UNPAN007058.pdf
- UNESCO (2000). *The Dakar framework for action*. ED-2000/WS/27. Paris: UNESCO.
- UNESCO (2003). EFA Global Monitoring Report 2003/ 2004: Gender and education for all: the leap to equality. Paris: UNESCO.
- United Nations (2006). *The millennium development goals report 2006*. New York: United Nations.
- World Bank (2001). *Data Archive: Vietnam Grade 5 Mathematics and Reading assessment study.* Hanoi:
 The World Bank.
- World Bank (2004). Vietnam reading and mathematics assessment study. Volume 2. Hanoi: The World Bank.
- World Bank Independent Evaluation Group (2006).
 From schooling access to learning outcomes: An unfinished agenda. An evaluation of World Bank support to primary education. Washington, D.C.: The World Bank.